

クラス番号	609	担当教員名	北村育子
テーマ	高齢者の日々の暮らしを支える専門職やサービス事業者の役割		
著書・論文 研究課題等	認知症の人々を含め、高齢者支援について研究しています。認知症高齢者の支援には継続して携わっており、特養でのグループワークを続けています。その他、さまざまな生きづらさを抱える人たちや自殺を考える人たちに対する電話相談にも長く携わっています。また、高齢者の在宅介護サービス事業を提供するNPO法人の運営に関わっています。		

ゼミナール概要

キーワード：高齢者、暮らし、専門職、協働、独居、認知症、など

目的：介護保険制度ができて15年あまり、制度創設当時とは環境が大きく変わってきている。団塊の世代が高齢期を迎え、少子化が進行するなか、これまでのようなゼイタクなサービス利用はできなくなるだろう。このような環境の変化をネガティブにのみ捉えていては、支援を必要とする人々の暮らしの質は低下するばかりである。このゼミでは、私たちの一生を見直し、高齢期に家族や他者の支援がどのような場合に必要となり、それらの支援の質や提供の過程をより詳しく理解した上で、人が高齢期を幸福に過ごすことができるようにするために、私たちは何をしなければならないか、どのような課題に取り組んで行かなければならないかを皆で話し合いながら、それらの課題の解決方法を探ることを目的とする。

内容：このゼミではまず、私たちの「暮らし」について学ぶ。私たちはふだん、起きて、身支度をして、朝ごはんを食べて、学校や仕事に通って、入浴し、夕飯を食べ、テレビを見たり家族と話したりして一日を終える。これらの一つひとつに、あらためて焦点をあてて考察する。暮らしは、長年住んだ自宅にも、特養にも、グループホームにもある。一人ひとりの暮らし方に違いがあることを再確認し、それを尊重することができるか、その方法について学ぶ。今後は、認知症であっても在宅でも暮らしが可能になるようなシステムが必要とされることから、認知症の人の特徴についても取り上げる。その上で、高齢者の暮らしを支える専門職やサービス事業者の役割について知り、専門職の協働や事業の運営についても焦点をあてる。また、充実した高齢期を迎えるために、高齢期に至る以前の時期をどう過ごすか、また高齢期の生活の変化をどのように受容するか、などについても考えたい。

ゼミのすすめかた：①衣食住を整えることについて学ぶ。ここでのキーワードは、個性と文化である。家政学や人類学にも目を向ける。②高齢になることに伴う心身機能の変化、社会関係の変化、それらの受容、また一人暮らしや認知症を抱えて暮らすことに伴うニーズについて学ぶ。③高齢者の暮らしを支える専門職には、ホームヘルパー、デイサービスの職員、ショートステイ施設の職員、これらの事業所の社会福祉士、地域包括支援センターの社会福祉士や保健師、ケアマネジャー、訪問看護師、かかりつけ医、などの他、入院した場合には入院先の医師や看護師、退院支援を行う社会福祉士、そして訪問サービスに携わる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士などがある。これらの専門職の役割と社会福祉士の仕事との違いや重なりについて学ぶ。また、組織としてのサービス提供事業者にも目を向ける。④卒業に向けて、各自の関心を絞り込んでいく。⑤卒論を計画し、執筆に取り組む。

担当教員からのメッセージ

ゼミでは、書籍や資料から学ぶことに加え、参加者が自分や家族の暮らしについて積極的に紹介し合い、そこから学ぶことを大切にしたいと思います。実際に介護サービスを提供している事業者の、地域での取り組みについても紹介し、生きること、暮らすことについて、みなさんの多様な意見を求めます。暮らしは人によっても、家族によっても、地域や地方によっても、何人で暮らすかによっても異なります。自らの暮らしにあらためて焦点をあてることで、高齢者の良き支援者になることを目指します。ゼミ生には、他のゼミ生との対話を通して、自分の考えをまとめていってほしいと思います。